

子宮頸がん予防ワクチン・ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン接種事業

平成23年1月から、国のワクチン緊急促進事業を受けて、表題の3種ワクチンの接種事業を開始します。3種ワクチンの接種に法的な接種義務はなく、保護者の希望による任意接種となります。

「子宮頸がん予防ワクチンの接種」は、発がん性のあるウイルス感染を約60%防ぐことができ、20歳以降のがん検診も併せて行うことで子宮がん予防の効果が高まります。

「ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチンの接種」は、細菌性髄膜炎の予防として有効です。

接種料金／無料

必要な物／母子手帳、体温計、健康保険証（本人確認のため）

接種方法／詳細は、下表の市内指定医療機関へお問い合わせ下さい。

■子宮頸がん予防ワクチン

①平成22年度（23年1月1日～3月31日）の接種の場合

対象年齢／平成6年4月2日～平成10年4月1日生まれの女子（中学1年生から高校1年生の学年に相当する者）
※平成6年4月2日～平成7年4月1日生まれの方は、平成23年3月末までに1回以上の接種を終えている場合のみ平成23年度も対象。

②平成23年度（23年4月1日～24年3月31日）の接種の場合

対象年齢／平成7年4月2日～平成11年4月1日生まれの女子（中学1年生から高校1年生の学年に相当する者）

接種回数と間隔／初回接種、2回目（初回接種1か月後）、3回目（初回接種半年後）

※原則、保護者同伴で接種してください。保護者が同伴できない場合は、事前に下記問合先まで連絡してください。

■ヒブワクチン・小児用肺炎球菌ワクチン

ワクチン種類	接種開始年齢	初回	追加
ヒブワクチン	生後2か月以上～7か月未満	4～8週間間隔で3回接種	初回終了から約1年後1回接種
	生後7か月以上～12か月未満	4～8週間間隔で2回接種	初回終了から約1年後1回接種
	1歳以上～5歳未満	1回接種	
小児用肺炎球菌ワクチン	生後2か月以上～7か月未満	27日以上間隔で3回接種	初回終了から60日以上あけ、1歳以降に1回接種
	生後7か月以上～12か月未満	27日以上間隔で2回接種	初回終了から60日以上あけ、1歳以降に1回接種
	1歳以上2歳未満	60日以上間隔で2回接種	
	2～5歳未満	1回接種	

■市内指定医療機関

あさじ医院	☎④ 0225	さかいこどもクリニック	☎④ 0415	堀井内科医院	☎④ 0150
安積医院	☎④ 0361	さたけ小児科	☎④ 1717	みのりクリニック	☎④ 8470
荒木医院	☎④ 9711	市立加西病院	☎④ 2200	三宅医院	☎④ 0067
大杉内科医院 ※1	☎④ 0023	徳岡内科 ※1	☎④ 0178	横田内科医院	☎④ 5715
小野寺医院	☎④ 3737	西村耳鼻咽喉科	☎④ 6020	医療福祉センターきずな ※2	☎④ 2881
おりた外科胃腸科医院	☎④ 6000	西村医院	☎④ 0001		

※1 子宮頸がん予防ワクチンのみ接種 ※2 入院・通院児のみ接種

【問合先】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

幼稚園・小・中・高校生の定期接種について

乳幼児期に受けた予防接種は、時間が経過するにつれて効果が低下していきます。幼稚園・小・中・高校生で追加接種し、予防接種効果を高めましょう。

予防接種名	対象者
麻しん・風しん混合予防接種	2期 幼稚園の学年で受ける予防接種（平成16年4月2日～17年4月1日生まれ）
	3期 中学校1年生で受ける予防接種（平成9年4月2日～10年4月1日生まれ）
	4期 高校3年生で受ける予防接種（平成4年4月2日～5年4月1日生まれ）
二種混合予防接種	小学校6年生で受ける予防接種（11歳から13歳未満）
日本脳炎予防接種	2期 9歳～13歳未満

接種料金・場所／無料。指定医療機関については下記までお問い合わせ下さい。

接種期間／平成23年3月31日まで 必要な物／母子手帳、体温計、健康保険証（本人確認のため）

【問合先】 国保健康課健康担当 ☎④8723 FAX④7521 kenko@city.kasai.lg.jp

加西病院のコーナー

加西病院ホームページ <http://www.hospital.kasai.hyogo.jp>

『ノロウイルスによる感染性胃腸炎』

■今年はノロの当たり年？

この原稿を書いている12月中旬の時点で、ノロウイルスによる感染性胃腸炎が大流行の兆しを見せています。例年の数倍もの流行が列島の北側から広がってきています。正月帰省を機に一気に全国に広がるかもしれません。そこで加西市民の皆様にもノロウイルス対策を立てて頂きたく、情報提供することと致しました。

平成21年広報かさい8月号にも紹介しましたが、加西病院は市内の医療介護施設と共に「加西市感染防止ネットワーク」を結成し、地域で感染症を防止する啓発活動を行っています。12月16日には健康福祉会館で一般市民も参加して『冬場に流行する感染性胃腸炎（ノロウイルス）の予防講座』を開催しました。その会で私も講師を務めました。その講演の内容です。

■ノロウイルスの症状

感染性胃腸炎は「お腹の風邪」と言われることがあります。それは冬季感染性胃腸炎の大部分を占めるノロウイルスが、激しい嘔吐と下痢の症状にも関わらず1～2日の短期間で自然に軽快することから付いた名前です。ノロウイルスは、手や食器や食品から感染します。ウイルスを貰った1～2日後に、突然吐き気が出て何度も嘔吐します。ほぼ同時に腹痛と下痢が始まり、体温を測ってみると38度程度の微熱があります。

症状は突然の発症で、嘔吐と下痢を何度も繰り返すのが特徴です。1～2日間で10回近くもトイレに駆け込みます。このような症状が出たら、「ノロウイルスに罹った！」と自覚して、他人に感染させない注意が必要です。ノロウイルスはとても感染力強いウイルスです。患者の便や吐物には1g中に1億個ものウイルスが含まれますが、10～100個もあれば人に感染します。

幸いノロウイルスによる胃腸炎は短い日数で自然に

回復します。子供や老人は脱水を来し易いので、温めたスポーツドリンクを飲んで防止しましょう。ただ重症な病気や体力の低下した人では、稀に重症化することがあります。3日以上下痢が続くなら、医療機関を受診することが勧められます。

■感染防止

ノロウイルス性胃腸炎に罹ったら何より他人に感染させないことが大切です。ノロウイルスは患者の便や吐物から、人の手を介して経口感染します。患者も健康者も手洗いが最良の防止手段です。その上で、家庭ではトイレや風呂や洗面所のタオルを分離します。特に吐物が飛び散ると拭き取り易いので、処理する場合は手袋とマスクと使い捨てのエプロンで防備します。吐物を新聞紙で覆って丁寧に集め、ポリ袋に入れ封印します。床は次亜塩素酸（市内薬店で販売）で広く消毒し、消毒に使った布もポリ袋に捨てます。

是非協力頂きたいことは、嘔吐や下痢が出た場合、職場や学校に行かない、外出しないことです。なにしろ大変感染力強いウイルスです。感染者の手に付いたウイルスが健康人の手に移り、僅かでも口に入ると感染します。学校や会社に行って嘔吐すると、消毒が不十分なら、乾いて飛散し集団感染を起こします。

特に病院や医療施設は体力の低下した人が大勢います。ノロウイルスの流行期間はお見舞いに行くのは止めましょう。付き添いのご家族の方もウイルスを運ばないように、食事前、トイレ後、外出後の十分な手洗いを心がけましょう。（病院事業管理者・院長 山邊裕）



【写真】加西市感染防止ネットワーク
12月16日に『冬場に流行する感染性胃腸炎（ノロウイルス）の予防講座』を健康福祉会館で行いました。

住民基本台帳カードの即日交付について

平成23年1月1日から住民基本台帳カードの即日交付については、本人確認書類として、「写真付きの官公署発行の身分証明書（運転免許証、パスポート等）」と、さらにもう1点「健康保険証、介護保険証等の身分証明書」の2点で確認することになりました。詳しくはお問い合わせください。

住民基本台帳カードの不正取得を防止する対策として、取り扱いが変更になりましたのでご理解、ご協力をよろしくお願い致します。

交付手数料は平成23年3月31日までは無料です。4月1日以降は500円の手数料がかかります。

【問合先】 市民課 ☎④8720 FAX④8045 shimin@city.kasai.lg.jp

